

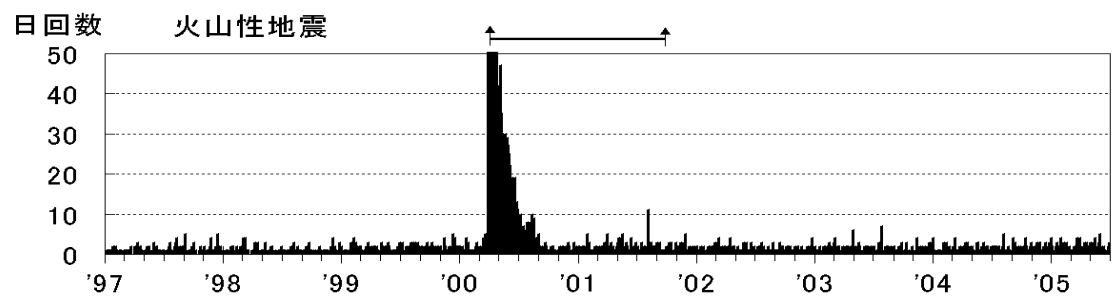
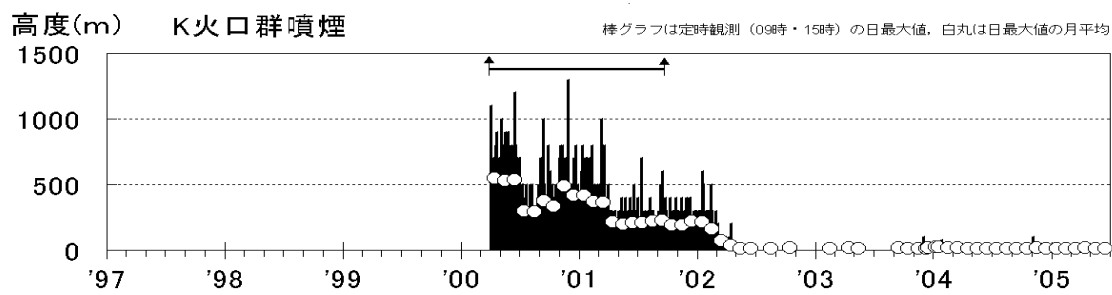
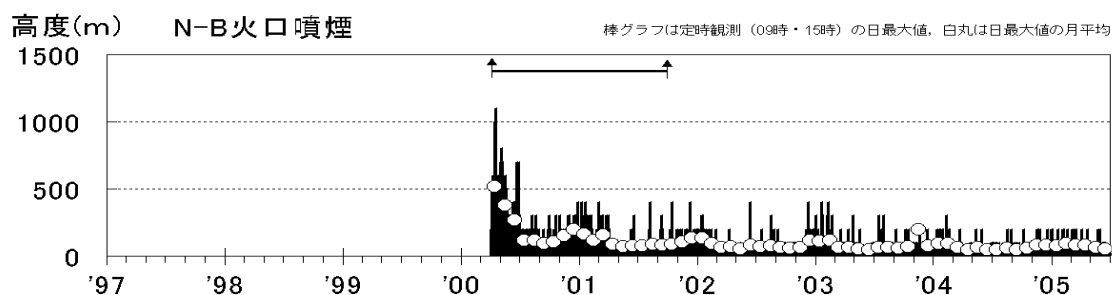
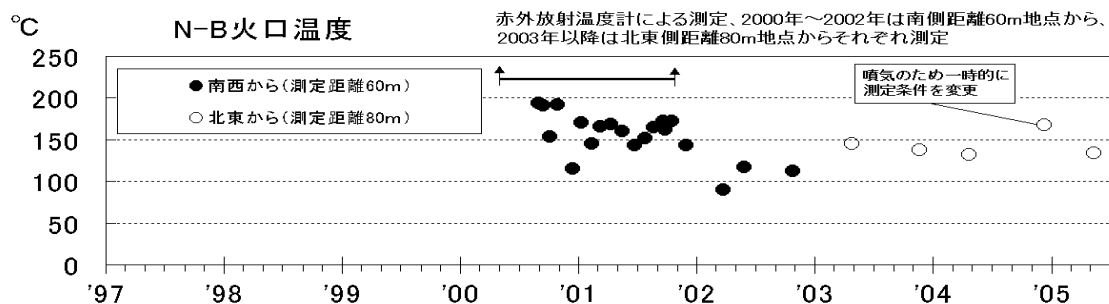
有珠山

1 概況

火山活動は静穏な状態が続いています。

2 噴煙の状況

西山西麓(N)火口群にあるN-B火口では、弱い噴気活動が続いており、噴気の高さは火口縁上おおむね100m以下で推移しました。金比羅山(K)火口群では、時折ごく弱い噴気が観測されました。その他、山頂火口原や昭和新山でも少量の噴気活動が続いていますが、これまでと比べて特に変わった様子は認められません。



最近の火山活動経過図(1997年1月1日～2005年6月30日)

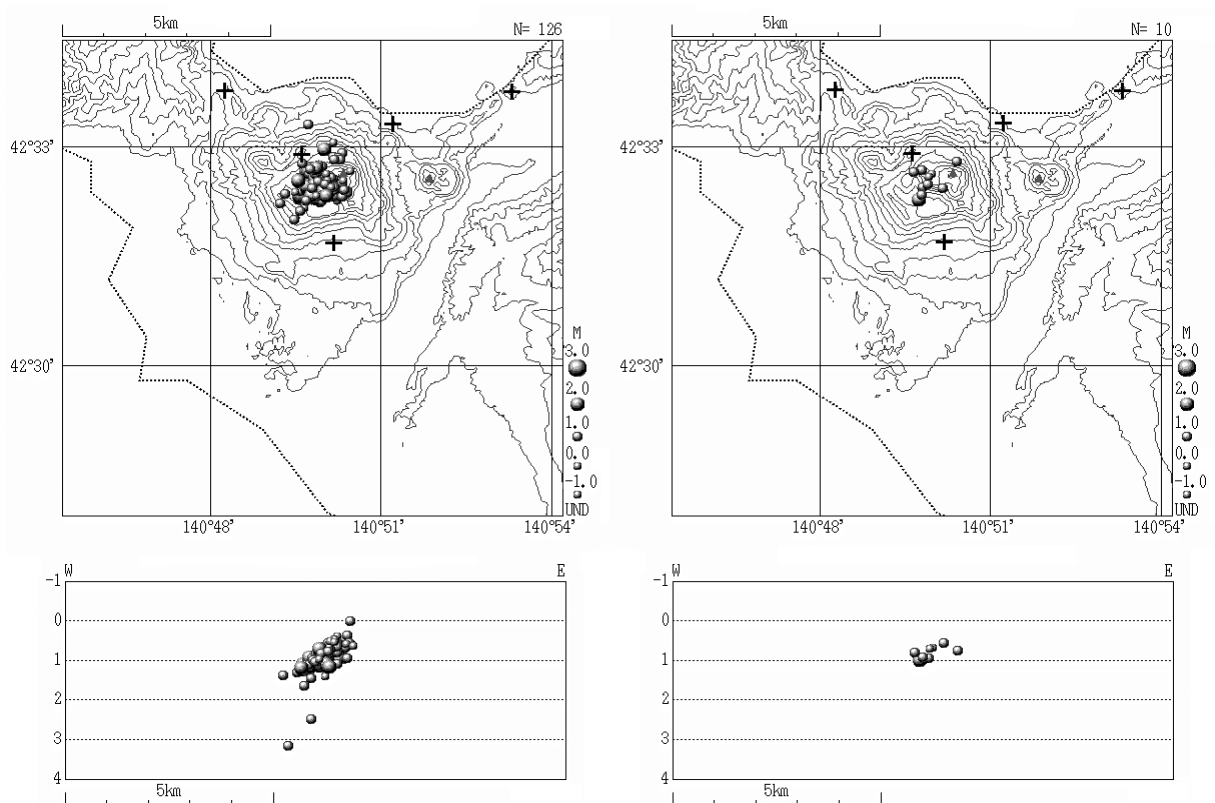
印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は1日あたり0~3回と少ない状態で推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数(A点)

2004~2005年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数	26	30	25	25	23	28	30	24	22	24	36	18
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



有珠山の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

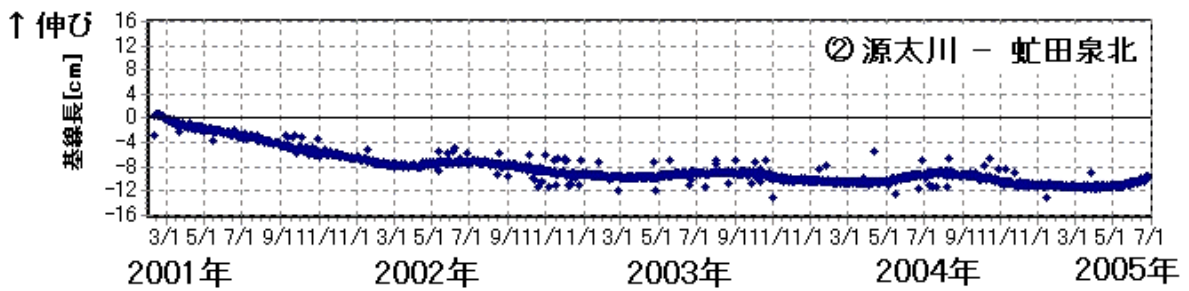
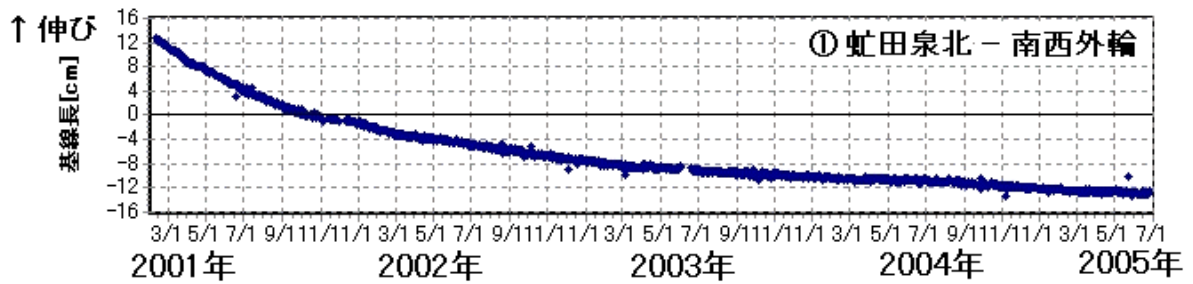
右図は今期間(2005年6月1日~30日)に求めた震源を示しています。

左図は前期間までの11ヶ月間(2004年7月1日~2005年5月31日)に求めた震源を示しています。

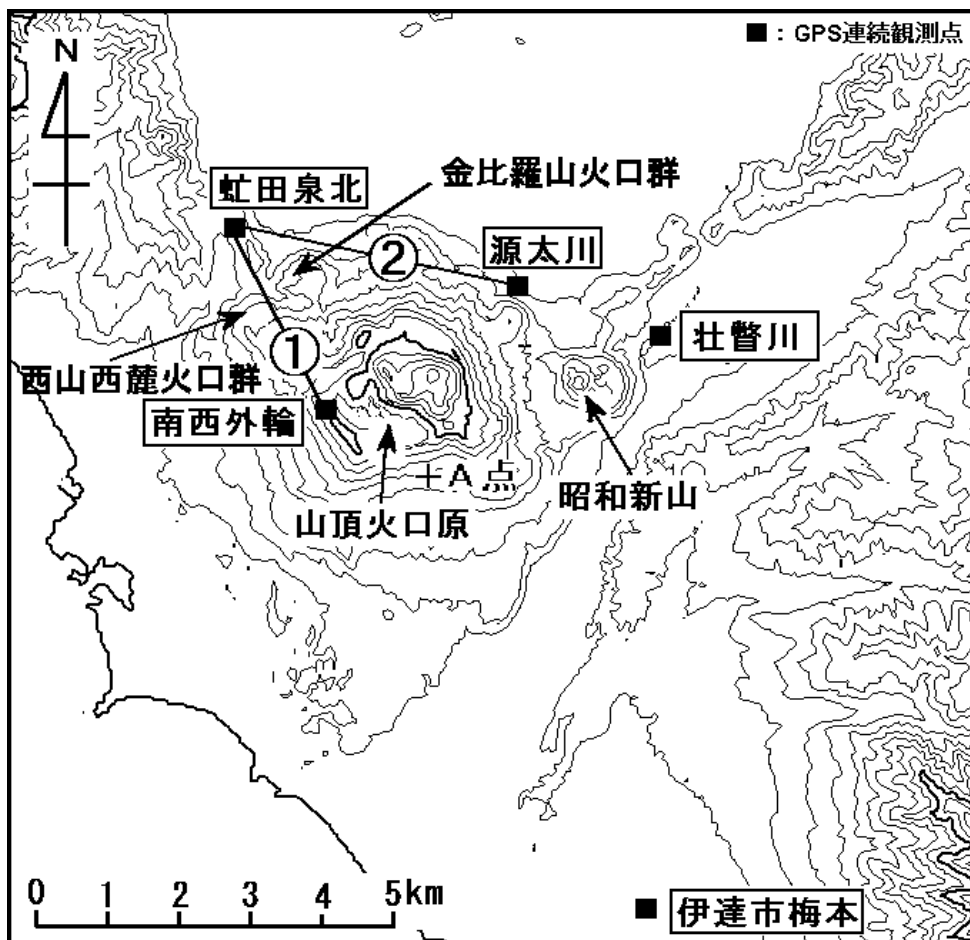
震源は山頂部直下の海面下1km前後に集中しており、今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、特段の変動は認められません。



基線長変化(2001年2月9日~2005年6月30日)



5 上空からの観測結果

6月1日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、西山西麓火口群および金比羅山火口群ではこれまでと比べて特段の変化はありませんでした。山頂火口原および昭和新山は曇天のため観測することができませんでした。

西山西麓火口群

N-B 火口では、火口壁のほぼ全体から白色の噴気を噴出していました。噴出の勢いは弱く、高さ 50m 程度で東へ流れていました。

N-C 火口西側の森林地帯からはごく弱い白色の噴気(高さ 10m 以下)が認められました。

金比羅山火口群

K-11 および K-A 火口東壁からごく弱い白色の噴気(高さ 10m 以下)が認められました。本年5月の調査観測では、K-A 火口、K-B 火口ともに湯溜まりとなっており、K-B 火口ではわずかな熱水の湧出が認められていました。上空からの観測では、K-A 火口は薄い青緑色、K-B 火口は濃い青緑色とともに水面状態は一様で、熱水対流および湧出を示す様子は認められませんでした。



南側上空から撮影した西山西麓火口群



北側上空から撮影した K-A 火口と K-B 火口